

平野祐次副町長退任のごあいさつ

令和8年3月31日をもって副町長を退任いたしました平野祐次です。



令和4年10月の就任以来、どこの誰だかわからないような県職員だった私を、温かく受け入れてくださり本当にありがとうございました。

いろいろな場所で出会った皆さんのおかげで、私の播磨町での3年半はとても充実した楽しい時間になりました。いつも元気に「あいよ」と応えてくれる明るい声や、パークマーケットでのわちゃわちゃしたやり取りや、ロードレース大会で颯爽と激走する親子の笑顔など、思い起こすと限りがないくらいたくさん思い出が溢れてきます。

以前、播磨町に愛はあるのかと質問されたことがあります。いま胸を張って答えることができます。播磨町を愛しています。そして毎日播磨町に恋しています。

そんな大好きな播磨町が、地域の皆さん、企業の方々、議会、行政がワンチームとなって、より力強く進み続けることを心から願っています。

4月から新たなステージに向かいます。不安なこともあります。播磨町で出会った皆さんのことを思い起こしながら、与えられた場所で一所懸命頑張ってみようと思っています。

はりま☆キッズタウン☆ニュース

こども会議（6回目・7回目）を開きました

6回目（1月29日）のこども会議は、「播磨町人権・同和研究協議会研究大会」で、こどもの権利について、どう発表するかを話し合いました。7回目（2月9日）は、こども会議の最終回。町長に、「ルールを作ってくれてありがとう。今度は、社会のためにどんなことができるかを考えてほしい」とエールをもらいました。



第1期のこども会議は、これで終わりです。つづきは第2期の委員にバトンをわたします。

こども会議委員が播磨町人権・同和研究協議会研究大会（ばんどうきょう）で発表しました

2月7日の「ばんどうきょう」で、こども会議委員の発表して広めたいグループが、発表をしました。話を聞いてくれた人が「とてもわかりやすかった」と言ってくれました。何かを作って広めたいグループは、ポスターやチラシを作り、PR用のポケットティッシュを委員みんなで配りました。チラシは9種類、ティッシュに詰めたポスター（チラシ）はなんと21種類。このチラシ入りのティッシュは4月に行われるはりま春風フェスの「こどもものけりブース」でも配るよいです。



きゅんぱすだより

播磨中学校



▲強い雪が降る中でのスキー教室は大変でした



▲プロに教わりながらフランス料理作りに挑戦

それぞれの春にむかって

1年生は、1月28日～30日に、2泊3日で八高高原へスキー教室に行ってきました。初めてスキーに挑戦する生徒がほとんどの中、自然の厳しさも味わいました。中学生になって初めての宿泊を伴う校外学習をとおして、集団生活でのルールや約束など、大切なことを意識しながら取り組むことができました。

2年生は、2月3日、ものづくり大学で、それぞれの職のプロの人から指導を受けながら、ものづくりを挑戦しました。「萱花台」や「錫の器」、「鶏モモ肉を使ったフランス料理作り」、「万華鏡」など、いろんな分野のものづくりを体験。自分の将来について考える良い機会となりました。

こどもの権利条例について大人も考える機会

先日、播磨町青少年問題協議会が開催されました。播磨町の子どもの関する様々な出来事について学んだり、話し合う機会として開催されています。

播磨町では、町内在住の小学4年生から中学3年生の15人で播磨町こども会議を立ち上げ、こどもの権利条例について検討を進めてきました。具体的には、条例の前文にどんなことが書いてあるとよいか、条例の名前は何か良いかなどを委員で話し合い、さらにタブレットを活用して委員以外の子どもたちからも意見をもらったりと、これまでにない方法で条例の検討が進みました。委員の検討の結果、条例案の名称は「播磨町いきる・そだつ・まもる・こどもの権利条例」となりました。こうした検討の過程や条例案について、年2回開催されている青少年問題協議会でも話し合う機会を持ちました。青少年問題協議会は、幼稚園から高校までの先生方、保護者、民生委員、自治会など多様な参加者が子ども



▲青少年問題協議会の様子

【まちづくりアドバイザーとは】 播磨町では、多様化・複雑化する地域の課題やニーズに、より細かく対応するため、2020年度より「まちづくりアドバイザー」を配置しています。自治会活動やコミュニティ活動、自主的なまちづくり活動について専門的な視点から支援します。

まちづくりアドバイザーがお届けする  
まちアド通信 協働推進課住民協働係  
☎079-435-2364